



平成30年度学校教育目標  
心ゆたかに たくましく  
重点目標  
「よく聴き よく考え 実践する子」

伊豆の国市立長岡北小学校学校だより 30/9/6号 Tel055-948-1062

## 第1回 学校評価考察

一学期末に児童、保護者、職員対象に学校評価アンケートを実施しました。児童アンケートには「一学期よかったこと、がんばったこと」の記述欄を設けました。

- 1年 ・登り棒、鉄棒をがんばった。 ・いちごハイクが楽しかった。
- 2年 ・生活科の町探検をがんばった。 ・虫の世話を友達と協力してがんばった。
- 3年 ・手を挙げて真剣に発表した。 ・リレー会で1位をめざし、がんばっている。
- 4年 ・運動、あいさつをがんばった。 ・音楽発表会の練習で、きれいな声が出せた。
- 5年 ・配膳をすばやく行い、みんなの役に立てた。 ・運動会の組体操をがんばった。
- 6年 ・下級生のお手本となるようがんばった。 ・友達のことを考え行動できた。

子どもの成長、視野の広がりが感じられるとともに、その場、そのときの輝いた顔が浮かんできました。

22の設問の中から、いくつかピックアップしてお知らせします。

- ◇ 4—よくあてはまる 3—あてはまる 2—あまりあてはまらない 1—あてはまらない の4段階評価です。数字は、その平均値を表しています。
- ◇ \*印は子どもへの設問表記をあらわしています。

No	設 問	児 童	保 護 者	職 員
1	* 学校で楽しく過ごしている。 学校生活を通し「心ゆたかに たくましく」育っている。	3.80	3.49	3.10
3	しっかり話を聞くことができる。	3.44	3.01	3.10
4	友達に考えを伝えることができる。	3.52	3.02	2.80
8	* みんなの役にたったと思うことがある。 自己有用感、自尊感情が育っている。	3.06	3.12	2.90
11	本をよく読んでいる。	3.40	2.95	3.40
15	* 係や委員会の仕事をしっかりやっている。 家庭で手伝いをしたり、自分の役割を果たしたりしている。	3.75	3.07	3.60
16	家庭や地域であいさつをしている。	3.61	3.08	2.90

## 1 学校教育目標・重点目標、自己有用感について

学校教育目標は昨年度に続き「心ゆたかに たくましく」です。重点目標に関しては昨年度の「しっかりと聴き 考え 話せる子」から本年度「よく聴き よく考え 実践する子」に変更しました。何事も机上だけではなく、いろいろなことに挑戦する、やってみる、「実践」に重きを、という願いをこめています。

前述の通り、学校生活を通し子どもたちはその学年、発達段階に応じて、仲間とのかかわりを通し、学び、成長しています。児童に対する設問の中で「みんなの役にたったと思うことがある。」が3.06と一番低い結果となりました。

人の役に立った、人から感謝された、人から認められた、という自己有用感、自分と他者（集団や社会）との関係を自他共に肯定的に受け入れられることで生まれます。

ほめる — 「えらい」大人の判断基準 上下の関係

認める — 「ありがとう」フラットな関係

「ほめて（自信を持たせて）育てる」という発想も大切ですが、「認められて（自信を持って）育つ」という方が、子どもの自信が持続しやすいといわれています。

「係や委員会の仕事をしっかりやっている。」という児童の評価が高いのに、「みんなの役に立ったと思うことがある。」の評価が低いことに関しては、学校でも一人ひとりを認める場をより増やしていきたいと考えています。

御家庭でも子どもの役割を決め、継続して実践してみてはいかがでしょうか。

人とのかかわりは「社会性の基礎となる部分」を養います。今後も「人とかかわることが好き」な子どもが育つよう、教育活動に取り組んでまいります。

## 2 学習、読書について

「話を聞く」「考えを伝える」に関しては、児童と保護者・職員の評価に差が見られます。保護者の記述欄には「集中して話が聞けていない。」「もっと積極的に発表してほしい。」といった意見が見られました。

職員の研修では、「意欲的な学び」「学びの実感」をテーマに取り組んでいます。学習に関する子どもの取組は、一朝一夕、劇的に変化するものではありません。今回の結果を受け、日々の授業実践、授業改善に取り組んでまいります。

読書に関しては、読解力、集中力、想像力の育成など、その効果は多岐にわたります。

「本をよく読んでいる」に関しては、児童・職員と保護者の評価に差がでました。家庭には、子どもにとって本よりも魅力的なもの（ゲーム・PCなど）があります。図書室利用に関しても、学年が上がるにつれ個人差が大きいという傾向がでています。食わず嫌いのところもあるかもしれません。

10月は読書月間です。子どもたちが夢中になれる一冊に出合えることを願います。

御家庭でも、ゲームなどを行う時間に約束をつくるなどすると、有意義な時間の活用につながるかと思えます。

## 3 あいさつについて

あいさつに関しても、児童と保護者・職員の評価に差が見られます。保護者の意見には「地域でのあいさつができない」という意見が多く見られました。学校では、児童会役員が中心となってあいさつ運動を行ったり、始業式や終業式、朝会などの全体指導の場で「自分からすすんであいさつをしよう」と呼びかけたりしています。

朝、北門で子どもたちをむかえていると、本校の卒業生であろう高校生が自転車で登校していきます。「おはようございます」笑顔と合わせ、とてもさわやかなあいさつが聞かれます。

あいさつについても一朝一夕にとはいきませんが、指導を継続してまいります。御家庭の御協力をお願いいたします。

結びに—

今後も地域、保護者のみなさまの御協力をいただき、子どもたちの学びをよりゆたかなものにしていきたいと思えます。